

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きりしま総合発達支援センター つぼみ 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	R7年 11月 28日		～ R7年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	R7年 11月 28日		～ R7年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	専門性のある視点からこどもの理解に努めている。モニタリングや日頃の関わりからこどもと保護者の状態や気持ちも踏まえ専門的な視点とともに分析し個別支援計画を作成している。	家庭や学校、他事業所での様子も積極的に情報共有し、より本人理解のある個別支援計画作成に努めている。
2	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	療育の様子をもとに専門性のある視点で評価を行い具体的な支援と目標を設定できるように意識している。家族支援においては日頃より保護者と話しやすい雰囲気づくりを意識し、困り事に対して支援を明確にしていくことに努めている。	移行支援については長期的な支援目標に対し早い段階から支援を進めていけるようにする。
3	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1年間のテーマを設定し、さらに4クールにテーマを分けて活動に取り組んでいる。同じ活動は長くても2週間で大人や同世代のこどもたちとともに個々のできる力を使って製作や活動の社会参加を支援する。R7年度は施設外での社会参加活動を実施した。	施設外活動においてはそれぞれの体調に合わせて直前に活動内容を決めるため、スケジュールやスタッフの打ち合わせが複雑になりやすい。社会参加活動の目的、それぞれの支援のねらいを確認しできるだけシンプルで取り組みやすい活動を計画していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	現在交流はない。利用時間と医療的ケア、個別療育と集団療育の時間を優先しているため交流の機会を作ることができていないもの今年度地域の方や近隣施設の利用者の方々との交流の機会を作った。こどもたちに負担のない範囲での交流の機会は今後とも企画を検討する。	医療的ケアや体調に配慮した当日のスケジュール調整は複雑であり外出を伴う活動においては年間計画として検討している。交流の時間は限られているが個々のねらいやどのような社会参加ができたのか、目的と結果をもとに今後も有意義な機会をつくることを大事にしていきたい。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	今年度家族支援、きょうだい児支援の企画を開催。対象者のみの案内となり、開催後の情報発信についてはできていなかった。今後は活動が広く周知されることが課題。	年間計画として対象者や時期を早めに検討し広く周知できるように定期的な情報発信と開催後の発信ができるようにしていく。
3	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	事故対応マニュアルに沿って行っている。マニュアルの周知方法として定期的な発信や情報共有が不足している。	広報と連携し一斉メールを利用した定期的な情報発信をする。また、施設内で保護者の目にとまる場所にHPのQRコードを掲載するなど療育待ち時間中に閲覧できるような環境づくりも検討する。スタッフ間の周知に関しても日頃からマニュアルについて意識できるよう場所の確認等行っていく。